



泉祝

特別
^5
6673
77
早稲田大学図書館



安永六丁酉天



越新浮

松籟覬連中

聖節

そのあやふた

景さすの心

あといち

公路

是れ此年終り

初就石

祝旦 三ツ物

祝ふる言ふよりよきものも水 菖山

やこゝち飛りも愛よと蓬草 非維

黄個より里に縁ふ此神ありと 赤玉

各詠

各詠

是れくと孫に言やと番印 儿玄

砂はれあやふた心と 是の言 之傳

子供ハハ 爲息自慢の事日ハ 子本
掛夜中おろろーとむとり年 香波
袋士工竹書けハ 望日ト又 之若
ソソいあふくもあはくもまは 高玉
手印巾着ト 註の啼あり 信南
葉如ハ巾 乾うぬる北斤在亦 不占
陽々巾着トあふ 砂のソ縁 里水
衣ー工ヤ川ト其くお巾着草 夕嵐

山越〜 砂ハ 鹿ハ 草草
竹畑工 藤ト 一日 字根ト 非錐

申此ヤハハ

板巻歌ニテハ 蘇例
五ハハト草草ト
夕と乞水

序ふト工乞吸セリ 年北樹 貞衣坊
御〜ハ久〜ハ 道〜 公路

際より「さうしてあゝよやく
 りく」
 ちかぬれとも 掛す瓦を 杵波
 りく「ゆきも」ゆきぬ月 之傳
 海に 影と 春の お初尾 夕茂
 かよひたりさゝも 河上より 里の
 てくくと 細く 舟 普山
 波舌の 傳くも 追ふ山の中 之若
 佛法傳の 巻「今ても 非誰

うそねくも ねむも 春のむん 子本
 未をたゆ「さやも」 兼哉

年くれれ せね「さやも」
 訪ひあつ人も ねれ
 遠き世上の ねと ねく

原出「源氏」 松翁
 文「りり」 年北若

文巻

行枝、菘北中より柳のも可敬

息の二路よりと作

あつらひの
匠一

柳のや花の 庭にともよふ 其芳

目見

糸梯治板

